

Press Release



## 第52回放送文化基金賞 決定!!

放送文化基金賞は、過去1年間（2025年4月～2026年3月）の放送・配信された中から選ばれた、優れた番組・コンテンツや個人、グループに贈られる賞です。今回は、全国の民放、NHK、動画配信会社などから、全部で317件の応募、推薦がありました。4月から約2か月にわたる厳正な審査の結果、ドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、ラジオの4つの部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の16作品と、演技賞や企画・制作賞など個人7件、放送文化、放送技術部門で8件、さらに特別賞1件の受賞が決まりました。

受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。賞金は、最優秀賞—100万円、優秀賞—70万円、奨励賞—50万円、個人賞—30万円、放送文化、放送技術部門—各30万円、特別賞—50万円です。

贈呈式は、2026年7月8日(水)午後4時30分から東京で行います。

1 ドキュメンタリー部門	5作品	最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—3
2 ドラマ部門	4作品	最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
3 エンターテインメント部門	4作品	最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
4 ラジオ部門	3作品	最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—1
1～4の中から個人	7件	演技賞—3 脚本賞—1 取材・制作賞—1 企画・制作賞—2
5 放送文化部門	4件	
6 放送技術部門	4件	
7 特別賞	1件	

お問い合わせ先 放送文化基金

(担当 川副、鈴木)

東京都渋谷区神山町9-6 日本会館2

TEL : (03)5738-7151

## 第52回「放送文化基金賞」受賞一覧

部門	賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
ドキュメンタリー	最優秀賞 (100万円)	NHK	NHKスペシャル ドキュメント 医療限界社会 追いつめられた病院で
	優秀賞 (70万円)	鹿児島テレビ放送	警察官の告白—鹿児島県警情報漏洩事件を問う—
	(50万円)	名古屋テレビ放送	メ〜テレドキュメント 風はどこから ~進む軍産回帰~
	奨励賞 (50万円)	テムジン、NHK、NHKエデュケーショナル	NHKBSスペシャル 戦後80年 僕の日本人助産師を探して
	(50万円)	NHK	NHKスペシャル 臨界世界 戦慄の占領地 “ロシア化”の実態
ドラマ	最優秀賞 (100万円)	NHKエンタープライズ、NHK	夜ドラ ひらやすみ
	優秀賞 (70万円)	WOWOW	連続ドラマW 夜の道標 -ある容疑者を巡る記録-
	奨励賞 (50万円)	テレビ東京	ドラマプレミア23 シナントローブ
	(50万円)	NHK、WOWOW	戦後80年ドラマ 八月の声を運ぶ男
エンターテインメント	最優秀賞 (100万円)	CBCテレビ	ハートフルワールド 京都・紙屋川砂防ダム編
	優秀賞 (70万円)	フジテレビジョン	AI実験バラエティ シンギュラ
	奨励賞 (50万円)	NHK	100カメ 羽田空港 空飛ぶ翼を守るプロたち
	(50万円)	RKB毎日放送	八カタの王様 しんどい通学路選手権 勝手に九州大会編
ラジオ	最優秀賞 (100万円)	NHK	特集番組 沖縄戦後80年 父はアメリカ兵だった
	優秀賞 (70万円)	NHK大津放送局	FMシアター 大きな湖の小さな島で
	奨励賞 (50万円)	KBS京都ラジオ	岸野雄一の〜民謡でヨイショ!〜
	演技賞 (30万円)	岡山天音	夜ドラ ひらやすみ
	演技賞 (30万円)	森 七菜	夜ドラ ひらやすみ
	演技賞 (30万円)	毎田暖乃	FMシアター 大きな湖の小さな島で
	脚本賞 (30万円)	此元和津也	ドラマプレミア23 シナントローブ
	取材・制作賞 (30万円)	下野賢志	ハートフルワールド 京都・紙屋川砂防ダム編
	企画・制作賞 (30万円)	房 満満	NHKBSスペシャル 戦後80年 僕の日本人助産師を探して
	企画・制作賞 (30万円)	木村和穂	NHKスペシャル 臨界世界 戦慄の占領地 “ロシア化”の実態
放送文化	(30万円)	西村匡史 (TBSテレビ)	17年にわたる「死刑」当事者の肉声記録と番組の制作
	(30万円)	「郷土劇場」制作チーム (沖縄テレビ放送)	“ウチナー芝居”といわれる郷土芸能文化を65年間にわたって継承してきた功績
	(30万円)	アイヌ差別取材班 (北海道放送)	10年にわたるアイヌ民族への差別・ヘイト問題の放送活動と行政を動かした実績
	(30万円)	NHK「ディープオーシャン」シリーズ制作チーム	長年にわたり深海シリーズを制作し世界へ国際展開した実績
放送技術	(30万円)	伊藤正史 (フジテレビジョン)	ISDB方式の現行テレビ放送を対象としたアドレスابلTV技術とその偽情報対策技術の開発
	(30万円)	シーラカンス8K撮影チーム (NHK)	世界初「シーラカンス8K撮影」および潜水艇撮影システムの開発
	(30万円)	手話CG研究開発チーム (NHK、NHK財団)	手話CG制作システムの研究開発および実用化
	(30万円)	1万人の第九EXPO2025 技術チーム (毎日放送)	1万人の第九EXPO2025
特別賞	(50万円)	チームコウセイラジオ (ラジオ番組「コウセイラジオ〜break through the wall〜」制作グループ)	少年院・刑務所経験者や支援者が犯罪と立ち直りについて語る番組の企画・制作

\*各部門の掲載順は受付順による。

### 最優秀賞

---

## NHKスペシャル

### ドキュメント 医療限界社会 追いつめられた病院で

#### NHK

##### あらすじ

取材の始まりは、“医療の質の低下”を訴える切実な声だった。舞台は島根県にある、地域で唯一の二次救急を担う総合病院。「患者を診ない医師もいれば、薬の処方を間違える医師もいます…」。カメラが記録したのは、医療の安心・安全という守るべき一線が脅かされるという、危機的な事態だった。背景にあるのは長年指摘されながら解決されなかった「医師の偏在」だ。積もり積もった歪みがいま、さまざまな形で患者を直撃。これまで当たり前だった医療が維持できなくなる「医療限界社会」の到来を告げる。番組では国のリーダーシップが十分とは言えない中、厳しい選択を迫られ始めた日本の医療の等身大の姿を映し出していく。

##### 選考理由

恥も外聞もなくありていに、とはこのことだろうか。重なる医療ミス、長時間労働、質の低下、圧倒的医師不足、減らない巨額の赤字。実名を出して、この事実を語るのは、さぞや勇気の要ったことだろう。しかし、医療が限界まできている、という紛れもない実態を知らしめるには必要なことだった。

全国の病院の7割が赤字に陥っている現実。これまで当たり前だった医療を維持することが、難しくなっている。今こそ、医師の偏在、効率重視の医療等々、医療の「限界」を考えるとところにきている。深く内部に切り込んだ取材に、大きな反響が寄せられたという。

### 優秀賞

---

## 警察官の告白—鹿児島県警情報漏洩事件を問う—

### 鹿児島テレビ放送

##### あらすじ

“日本警察の父”と言われる初代警視總監・川路利良大警視。そのお膝元の鹿児島で異例の事態が起きた。

鹿児島県警のノンキャリアの最高ポストにいた元生活安全部長がメディアへ情報漏洩をした疑いで逮捕された。

「野川明輝本部長が警察職員の犯罪行為を隠ぺいしようとしたことが許せなかった。」

組織のトップである本部長を名指しで糾弾する。現職の巡査長もメディアに内部文書を漏洩した疑いで逮捕された。

この警察官も背景に組織への不信感があった。メディアへ強制捜査が入る…。別々に見える2つの事件は、繋がっていた。

##### 選考理由

発端は、鹿児島警察のノンキャリアによる内部告発だった。その後、それを報じたメディアへの圧力があり、キャリアとノンキャリアの対立、そして公益通報者はどう扱われるべきか、と問題は複雑な様相を呈した。一年に及ぶ取材での、当事者たちの生々しい告白には凄みがある。素晴らしい調査報道と評価が高かった。

## 奨励賞

---

# メ〜テレドキュメント 風はどこから〜進む軍産回帰〜

## 名古屋テレビ放送

### あらすじ

第二次大戦中、軍需産業都市だった名古屋は空襲の標的となった。日本銀行に保管されている極秘資料からは、かつて民需企業を軍需企業に転換した戦時融資の一端が明らかになる。国内の軍需産業は、終戦で一旦は解体されたが、朝鮮戦争によって復活。現在、国は「安保三文書」などをもとに、防衛費の「対GDP比2%」への拡大と、防衛産業の基盤強化を急ぐ。自動車産業に依存してきた名古屋周辺の企業の中には、防衛産業を事業の新たな柱にしようとの動きもみられる。かつての軍都を舞台に進められる、防衛産業の拡充に焦点を当てる。

### 選考理由

第二次大戦中の名古屋は軍需産業の集積地であり、空襲の標的となった。現在、防衛力の強化を謳う高市政権のもと、自動車産業に依存してきた名古屋周辺の企業が軍需産業に活路を見出そうとしている。企業側が安易に武器造りに転換していく様子をレポートする、実にタイムリーな報道である。

## 奨励賞

---

# NHKBSスペシャル

## 戦後80年 僕の日本人助産師を探して

## テムジン、NHK、NHKエデュケーショナル

### あらすじ

中国人ジャーナリストの寇愛哲さんは自身を取り上げた助産師・浦山あき子さんの消息を探している。満州で終戦を迎えた浦山さんは、ソ連侵攻の混乱の中で一家心中を図り、3歳と1歳の娘を隣人に頼んで殺めた。自身も自殺を図ったが、中国人に助けられて生き延びてしまった。その後、浦山さんは助産師として中国で50年近く働き、1万人を超える新生児を取り上げた。愛哲さんはその一人だった。番組では、愛哲さんの取材を通じて、戦争と日中の狭間で翻弄され続けた浦山さんの92年の数奇な人生を浮かび上がらせる。

### 選考理由

中国残留婦人となった浦山あき子さんは中国に残り、助産師として1万人以上の中国人の新生児を取り上げた。そのうちの一人である寇愛哲氏が、浦山さんの足跡を辿る。終戦後の満蒙開拓団がどんな運命を辿ったかは様々な作品になっているが、中国人の側からの調査は初めてではないだろうか。日中関係が悪化している現在、国を越えた人間同士のつながりを希望とする好企画である。

## NHKスペシャル

### 臨界世界 戦慄の占領地 “ロシア化”の実態

NHK

#### あらすじ

ロシア軍とウクライナ軍がにらみ合う最前線。すぐ近くには、ロシアが軍事侵攻によって占領したウクライナの領土“占領地”が広がっている。ここでは、ウクライナの言語、通貨、国籍もロシアに置き換えるロシア化が急ピッチで進んでいる。今回、占領地の学校にできたロシア軍の士官候補生を養成するクラス、隣人に密告され国家反逆罪で逮捕された市民、ロシア兵として徴兵され前線に送られたウクライナ人を独自取材。さらに、ロシアの統治下にあるメディアや占領政府当局など60の組織に接触し、ロシア化の実態をスクープした。

#### 選考理由

ロシアのウクライナ侵攻により、ロシアの占領地となったウクライナの国土。そこに暮らす六百万人ものウクライナ人が、どんな状況におかれているのかを取材した、世界でも稀なレポートである。ここでは、言語、通貨、国籍をロシアに置き換えるロシア化が進んでいる。子どもに施される教育。ロシア人の入植。土地だけでなく、人間としての尊厳まで奪われる人々の姿に、占領後の「平和」の偽善を見る。

### 最優秀賞

---

## 夜ドラ ひらやすみ

NHKエンタープライズ、NHK

#### あらすじ

生田ヒロト、29歳、フリーター。

定職なし、恋人なし、普通ならあるはずの？将来の不安も一切ない、お気楽な自由人です。

そんな彼は、人柄のよさだけで、仲良くなった近所のおばあちゃん・和田はなえから、一戸建ての平屋を譲り受けることに。

そして、山形から上京してきた18歳のいとこ・小林なつみと2人暮らしを始めました。

彼の周りには生きづらい“悩み”を抱えた人々が集まってきて……。

#### 選考理由

平屋に住むことと、平に休みにすることを掛けたと思いきタイトルがのほほんとして示しているように、せわしない現代の生活にホッと息をつかせてくれる作品だ。一戸建てを他人からもらうという設定は、他者への親切が契機で運が開けるディケンズの『大いなる遺産』型の夢の設定と言えよう。幸せは目の前にあるのに、人は立ち止まってそれを感じようとしなないというT・ワイルダーの『わが町』型テーマを、究極の優しさで描いた傑作だ。俳優陣の演技、ナレーションが特に優れていた。

### 優秀賞

---

## 連続ドラマW 夜の道標 –ある容疑者を巡る記録–

WOWOW

#### あらすじ

1996年、塾講師・戸川（宇野祥平）が殺害された。被害者の元教え子で軽度の精神障害を抱える阿久津（野田洋次郎）が容疑者として捜査線上に浮かぶが、行方が知れぬまま2年が経過。窓際刑事の平良（吉岡秀隆）と部下の大矢（高杉真宙）は聞き込みを続けるが、事件は混迷を極める。一方、阿久津の同級生・豊子（瀧内公美）、小学生・波留（小谷興会）をはじめ関係がないように見えた者たちが、逃亡中の阿久津を中心に動き出したことで、思いも寄らぬ展開を見せていく…。殺人の裏に隠された真実に迫る、慟哭の本格社会派ミステリー。

#### 選考理由

1996年まで施行されていた優生保護法の問題を起点とするドラマだが、正しさが時代によって変わることを鋭く描いて秀逸である。父親であることの意味を肩車で表現したラストは、子どもを持つ意義と合わせて感動的だった。

## 奨励賞

---

# ドラマプレミア23 シナントロープ

## テレビ東京

### あらすじ

舞台は、街の小さなバーガーショップ「シナントロープ」。そこで働く8人の若者たちの中、大学生の都成剣之介（水上恒司）は、バイトの同僚・水町ことみ（山田杏奈）に、密かに想いを寄せていた。そんなある日、「シナントロープ」で不可解な強盗事件が発生。静かだった日常は、少しずつ歪みはじめる。

恋愛と友情、絆と裏切り、運命と選択——揺らぎ出した関係と感情が、次々と事件を引き寄せていく。何が本当で、何が嘘なのか。そして、都成の想いの先に待つのは、恋か、それとも——。

### 選考理由

独特の個性を持つ若者たちの青春群像劇と犯罪ミステリーとが巧みに融合した秀作だ。圧倒的な構成力を持つ脚本に支えられて、若い俳優陣とスタッフの魅力があふれ出た。「トンビは鷹を生まない」というモチーフの活かし方がすばらしい。

## 奨励賞

---

# 戦後80年ドラマ 八月の声を運ぶ男

## NHK、WOWOW

### あらすじ

長崎に暮らし日本全国を渡り歩いて被爆者の声を集め続けたジャーナリスト伊藤明彦の実話に基づいた、原爆によってもたらされた数奇な出会いの物語。

その生涯をかけ、1000人を超える被爆者の「声」を録音し、未来へ遺した一人のジャーナリストがいた。重い録音機材を携え日本全国を渡り歩く日々、活動を周囲から理解されない孤独の中、彼はある被爆者と出会う。その感動的な被爆者体験は彼の心を強く揺さぶり、声を遺すことへの決意を新たにさせる。しかし、その「声」は謎に満ちたものだった…。

### 選考理由

千人以上の被爆者の声を録音した元記者・伊藤明彦をモデルとした作品で、主演の本木雅弘と阿部サダヲの演技が光った。戦争が身近になってきた今、改めて過去の声聞く必要が増しており、社会的に意義深い作品となった。

### 最優秀賞

---

## ハートフルワールド 京都・紙屋川砂防ダム編

### CBCテレビ

#### あらすじ

地上波で触れられてこなかった世界にも正面から向き合い、ディレクターが1人、“ハートフル”を探し出す。今回の舞台は、京都市の紙屋川砂防ダム。本来は土砂災害を防ぐための施設だが、その中に在日コリアンを中心とする集落がある。彼らはなぜ、そこに住まざるを得なかったのか。取材を始めたものの、応じてくれる人は誰もいない。住民を非難するネット動画の配信で、深く傷ついていたためだ。砂防ダムの歴史を辿る中で、近くの被差別部落との深い関わりが浮かび上がる。そして、現地へ通い詰めるうちに、住民との距離が少しずつ縮まってゆき…。これまでメディアで語られなかった住民の想いや地域の歴史を、約1年の取材で伝える。

#### 選考理由

京都市に、砂防ダムの内側につくられた集落がある。ネット上の誹謗・中傷に傷つき、口を閉ざす住民たち。取材者は何度も断られながら、粘り強くその場所に通い詰め、やがてその人生に分け入っていく。浮かび上がるのは、被差別部落と、そこからも排除された在日コリアンの苦難の歴史だ。行政からもマスコミからも「なかったこと」にされながら、逆境を生き抜いてきた女性の人生が心に響く。声なき声に耳を傾けるドキュメント・バラエティの傑作である。

### 優秀賞

---

## AI実験バラエティ シンギュラ

### フジテレビジョン

#### あらすじ

日進月歩で進化するAIを活用した新しい2企画をMCオードリー若林正恭とお届けした番組。【脳内大喜利】では、お題に対して即座に画像生成し回答する、新時代の大喜利を実験。芸人たちの脳内イメージを画像として生成することで、言葉だけでは表現しきれなかった視覚的笑いが誕生した。【冠代行イーアイ】では、「芸能人をAIで再現してMCを任せたらどうなるのか」を検証。俳優・永尾柚乃の見た目・声・思考を再現した“AI永尾柚乃”を生成し、MCを担当させることで、近未来のバラエティ番組を実現した。

#### 選考理由

人間とAIの相乗効果で新たな笑いを創り出した。特に「脳内大喜利」では、AIを人間と競わせるのではなく、遊び道具として使うことで、芸人たちの未知の才能を引き出すことに成功した。AI活用の新たなステージを切り拓く新機軸のバラエティである。

## 奨励賞

---

# 100カメ 羽田空港 空飛ぶ翼を守るプロたち

## NHK

### あらすじ

『100カメ』は、1つの場を固定カメラ100台で撮影する人気ドキュメンタリー番組。今回は、巨大空港・羽田を100台のカメラでのぞき見！約1分に1回離着陸する大忙しの空港で、安全と定時を守るプロたちの知られざる奮闘に迫る。航空会社の運航管理部門では、運航ダイヤの乱れに修正案を考えるダイヤ担当や、上空のパイロットと無線で交信する運航管理者たちがトラブルに対処する。出発が迫る中、搭乗口に乗客が現れない…どうする？手荷物を預けた先や、滑走路を走る車の秘密とは…？空飛ぶ翼を守るプロの仕事に注目！

### 選考理由

安全な空の旅を陰で支えるプロたちの仕事ぶりに驚かされた。次々に起こるトラブル。そこに垣間見える人間模様。それはこの社会の縮図のようでもある。「100カメ」が練り上げてきた同時定点観測という手法の持ち味が、最大限に発揮されている。

## 奨励賞

---

# ハカタの王様 しんどい通学路選手権 勝手に九州大会編

## RKB毎日放送

### あらすじ

福岡県内の高校生のホンネを探る企画の取材で気付かされたのが、多くの学生が通学路に対して不満を持っていたこと。そこで番組ではハカタの王様オリジナルの公式を編み出し、通学路のしんどさをポイント化。県内外から番組に寄せられた「わが高校の通学路こそがしんどい」との声をもとに、九州各県の高校をスタッフ総出で調査すること約2か月。ついに九州一のしんどい通学路の高校が判明。名誉ある!?九州一のしんどい通学路の称号を手にするのはどの高校か。

### 選考理由

通学路に不満を持つ高校生たちの本音を拾い上げ、汗と笑いのエンターテインメントとして見事に昇華させた。坂道を独自計測してランキング化することで、しんどい通学路を愉快的なネタへと反転させる企画力に脱帽。ぜひ全国大会も見てみたい。

### 最優秀賞

---

## 特集番組 沖縄戦後80年 父はアメリカ兵だった

NHK

#### あらすじ

沖縄では80年にも及ぶ米軍の駐留により、米兵と沖縄女性の間には数多くの子どもが生まれています。そうした「ハーフ」或いは「ミックスルーツ」と呼ばれる人々は幼少時から差別や偏見に苦しんできました。番組では当事者3人の視点から沖縄の知られざる歴史に焦点をあてます。宮永英一さん（74歳）は周囲の冷たい視線をはねのけて音楽の才能を磨き、沖縄を代表するミュージシャンに登り詰めました。仲村和枝さん（76歳）は差別に耐え切れず一度は沖縄を離れましたが、故郷の人々の愛を再発見したことで故郷を取り戻しました。親富祖愛さん（42歳）の父は黒人です。親富祖さんは今なお続く差別の現状を変えるべく活動を続けています。

#### 選考理由

沖縄の「ミックスルーツ（ハーフ）」の現状という独自の視点から、戦後80年を検証した優れた番組である。幼少期から差別や偏見に苦しんだ3人の語り手の、それぞれの言葉が重い。〈薩摩の琉球侵略以来まだ支配の中にある沖縄〉〈否定し続けた父の血を受け入れ、故郷を取り戻す〉〈沖縄に基地がある限り終わりのない構造的差別〉。そして、あきらめずに希望を模索する各々の人生の今の姿が、戦後80年について、未来について問いかける。

### 優秀賞

---

## FMシアター 大きな湖の小さな島で

NHK大津放送局

#### あらすじ

舞台は、琵琶湖に浮かぶ沖島。日本で唯一の、人が暮らす湖上の島である。湖と山に囲まれた狭い場所に200人ほどが暮らしている。

小学5年生の理沙は、親や先生とは話すことができるのに、クラスの子と話すことができない。「あの、えと…」言いたいことはあるのに、どうしても言葉が出てこない。学校を休むことが増えた理沙は、母の勧めで島の学校に転校することになった。児童数8人の小さな小学校。そこで理沙は、担任のごっちゃん先生、妹や弟のように慕ってくれる仲間と出会い、自分を変えようと小さな一歩を踏み出していく。

#### 選考理由

琵琶湖の沖島の小学校を舞台に、離島通学の少女の心の成長を描いた感動のドラマ。友達とうまくしゃべれない少女の、実話をもとにした心理の起伏がよく伝わり、想像のなかに鮮やかな映像が見える。クライマックスの船上場面が圧巻。

## 奨励賞

---

# 岸野雄一の～民謡でヨイショ！～

## KBS京都ラジオ

### あらすじ

この番組はキャラクター「みんなちゃん」による解説を交えリアルとファンタジーで展開されます。岸野雄一は「すみゆめ踊行列：SUMIBON」をプロデュース、また京都市左京区一乗寺に伝わる鉄扇踊りを学生らと継承に取り組みます。気鋭の唄い手、中西レモンと「みんなちゃん」を操るのは民謡研究家の佐藤千春。熊本民謡の「おてもやん」を題材に、甚句に始まり幾つもの背景を探りながら文脈を辿り、曲調や歌われ方の変遷に耳を傾け、民謡がどのように“音楽”として進化し、時代と共に移り変わってきたかを描いています。

### 選考理由

民謡「おてもやん」の歴史や地域の変遷をたどり、さまざまなバージョンの歌を聞かせ、爆笑の現代語訳まで披露する。制作者もさぞ楽しかったらと思うせる遊び心満載の作りで、じつに楽しい。ラジオならではの歌と語りのか。

## 演技賞

### 岡山天音

夜ドラ ひらやすみ (NHKエンタープライズ、NHK)



#### 選考理由

『ひらやすみ』では、俳優・岡山天音の持つ魅力のすべてが生田ヒロトという人物として結実したかのようなナチュラルさがあった。どこまでも優しく、他者を思いやることのできる人物をここまで自然に、かつ内省的に丁寧に表現し得る俳優はほかにいないのではないだろうか。これまで、屈折した陰のある役や野心的で情熱に満ちた役など様々にこなしてきた岡山だが、人の辛さや痛みを知っているからこそ、生きることを慈しむ大切さを自覚する品性のある力強い人物を見事に体現し得たのだろう。単なる能天気なマイペースではなく、人間としてあるべき軸をしっかりと示し得たのは、彼の人間としての佇まいの確かさに基づいていると思われる。

## 演技賞

### 森 七菜

夜ドラ ひらやすみ (NHKエンタープライズ、NHK)



#### 選考理由

さまざまなキャラクターを演じ分ける実力派だが、『ひらやすみ』では、不器用な十代の美大生を演じ、ヒロ兄や大学の友達との関係性の変化を繊細に、かつ爽快に演じて視聴者を魅了した。最初は自意識過剰でムスツとした駄々っ子をコミカルに演じつつ、次第に友達と打ち解けて自信を持てるようになっていく成長の変化をしっかりと演じてみせた。視線や表情、体の動きや態度など、あらゆる要素を大きく使いながら過剰にならずに自然に見せる演技力は尋常ではない。特に阿吽の呼吸でヒロ兄との関係性を築けたのは、相手を信頼して、その場で何かを生み出す瞬発力があるからだろう。将来が楽しみな女優である。

## 演技賞

### 毎田暖乃

FMシアター 大きな湖の小さな島で (NHK大津放送局)



#### 選考理由

ラジオ番組の演技賞はハードルが高い。俳優の大きな力となるべき動きやたたくまいや表情が、ラジオでは見えない。その分、よりいっそう大胆でナイーブな声の演技が求められる。高低や抑揚、間合いや気配。いわば声の表情が見えるかどうか。毎田暖乃は、すでに子役として活躍し定評のある俳優であるが、このたびの演技により、さらに大きな可能性を示した。友達とのコミュニケーションに困難を抱えた小学5年生の少女・理沙。離島通学をとおして成長してゆく少女の、怖れやとまどい、ひとときの喜びや不安、そして回復への兆し。変われそうで変われない自分を、変わってゆく途中と受け入れるまでの心理の変化を見事に演じて、あざやかな声の表情でリスナーを感動させた。

## 脚本賞

### 此元和津也

ドラマプレミア23 シナントロープ (テレビ東京)

#### 選考理由

独特の個性を持つ若者たちの青春群像劇と犯罪ミステリーとを、言葉遊びやイメージの連携を用いて巧みに構成した。深い人物造形がサスペンス性を高めている。驚くべき才能だ。

## 取材・制作賞

### 下野賢志

ハートフルワールド 京都・紙屋川砂防ダム編 (CBCテレビ)

#### 選考理由

住民たちと信頼関係を築きながら、タブーとされた街の歴史と人生を掘り起こしていく取材者としての胆力が抜き出ている。重たいテーマをエンターテインメントの枠組みで発信するプロデューサーとしての手腕も光る。

## 企画・制作賞

### 房 満満

NHKBSスペシャル 戦後80年 僕の日本人助産師を探して（テムジン、NHK、NHKエデュケーショナル）

#### 選考理由

中国人の「自分」を取り上げた助産師が、残留日本人女性だったことから、その女性を探す旅に出る。日本人の側だけでなく、中国人もまた、縁のある人を探そうとする。過去が現在に、個人が個人に繋がることをさりげなく、そして温かく見せてくれた日中を繋ぐ制作者に。

## 企画・制作賞

### 木村和穂

NHKスペシャル 臨界世界 戦慄の占領地 “ロシア化”の実態（NHK）

#### 選考理由

ロシアが占領したウクライナでは、何が起きているのか。現実は、想像を遥かに超えていた。占領地に入って報道すること自体が困難な中で、ロシアによる占領政策の、恐るべき実態に迫った貴重な報道に対して。

# 西村匡史（TBSテレビ）

## 17年にわたる「死刑」当事者の肉声記録と番組の制作

### 業績内容

裁判員制度開始から17年間にわたり、死刑の取材を継続してきた。国が実態を開示しない中、死刑囚や家族、遺族の肉声を原則実名・顔出しで記録し続けた。カメラ取材が禁じられた拘置所の面会室には法廷画家を同席させ、イラストで死刑囚の実態を伝える手法を開拓したことは、放送界に大きな影響を与えた。『報道特集』や「映画」、反響を呼んだ「配信記事」など多角的な発信を通じて今も社会に死刑の意義を問い続けている。

### 選考理由

死刑囚とその家族や、被害者の遺族。さらに死刑の判断を下した人々の思いまでを深く聞きとる。まさに死刑当事者の肉声を17年にわたり記録し続け、制作してきた番組の数々は、番組として優れているだけでなく、日本人に死刑制度についての熟考を促す力を持つ。裁判員制度の中、誰もが判断を迫られるはずの問題にもかかわらず、必要な議論が深まらない今、西村氏の問題提起には貴重な社会的意義がある。これぞテレビの果たすべき役割と、高く評価したい。

## 「郷土劇場」制作チーム（沖縄テレビ放送）

### “ウチナー芝居”といわれる郷土芸能文化を65年間にわたって継承してきた功績

### 業績内容

1960年開始の郷土劇場は、65年にわたり親子愛や協働を描く教訓劇・人情劇・喜劇を通して、沖縄の精神文化「肝心（ちむぐくる=心の温かさ）」と、名優が語る「しまくとぅば」によるウチナー芝居を継承してきた。若年層向けに冒頭であらすじを紹介し、字幕表現を工夫するなど親しみやすい番組づくりを推進。近年はYouTube 配信を通じて国内外にも視聴が広がり、沖縄文化の普及と次世代への継承に貢献している。

### 選考理由

郷土芸能は文化的に貴重だと神棚に祀られるばかりで、若者の関心は薄く、テレビでの放送は稀だ。ところが沖縄テレビ放送では、営業的に厳しい環境の中、沖縄独自の芸能・ウチナー芝居などを65年にもわたって放送し続けている。冒頭であらすじを伝えたり、字幕を入れたり工夫し、なんとしても沖縄の心を若い世代に継承するという強い意志を感じさせる。今や番組はYouTubeで配信され、海外からの閲覧も増え、沖縄文化の新しい可能性を広げている。

# アイヌ差別取材班（北海道放送）

## 10年にわたるアイヌ民族への差別・ヘイト問題の放送活動と行政を動かした実績

### 業績内容

アイヌ文化への関心が高まる一方で「アイヌはもういない」などとする差別が広がっている。札幌市では先住民族であることを否定するようなパネル展が公共施設で行われ、アイヌや研究者、市民が差別的だと批判している。北海道放送は10年前からアイヌへの差別問題を継続取材し、全国放送やドキュメンタリー番組も多く制作した。展示を許可した札幌市に対して見解を問いただし、市が問題を議論する第三者機関設置への動きになった。

### 選考理由

北海道放送お膝元でのアイヌ差別問題。10年にわたり粘り強く取材し、様々な番組でくり返し放送。今、差別問題は、ネット上の誹謗中傷など、放送するにはリスクが高く、尻込みする局も多い中、北海道放送は怯まず取材を続け、これを「伝えないことが放送の価値を落とす」と覚悟、信念をみせる。差別的展示を許す札幌市の責任を追及し、市独自のガイドライン作成へと動かす。行政責任を追及し、現実的解決への道を開く。「今の時代のジャーナリズムの原点」を示す。

# NHK「ディープオーシャン」シリーズ制作チーム

## 長年にわたり深海シリーズを制作し世界へ国際展開した実績

### 業績内容

地球最後のフロンティア「深海」に、10年以上挑み続けてきた。ダイオウイカ世界初撮影を起点に、世界初の南極・深海調査、マリアナ海溝・魚類最深記録更新、生物発光の可視化を実現。直近では、紅海・無酸素環境ブラインプールおよび生きた化石・シーラカンスの生態を高精細映像で記録。進化研究に重要な知見を提示した。全作品で国際共同制作を行い、日本発のコンテンツとして世界に発信、日本の放送文化の発展に寄与した。

### 選考理由

深海という未知の世界に10年以上挑み続け、世界初の映像の数々を視聴者に届け、「これぞテレビ」とテレビの底力を見せつけてきた。捉えられた映像は、学術的な研究の上でも貴重な情報となっている。民間では実現しにくい大規模で先駆的な企画にとり組み、テレビのフロンティアを開拓する公共放送としての責任と役割を果たしている。国際共同制作のしゅきみを実現し、日本から映像文化を世界に発信している点も高く評価できる。

### 伊藤正史（フジテレビジョン）

---

#### ISDB方式の現行テレビ放送を対象としたアドレスサブルTV技術とその偽情報対策技術の開発

##### 業績内容

テレビ放送にネットを連携させて、番組の一部を配信映像へ差し替え、視聴者ごとに最適化された広告や番組内容を提供できるアドレスサブルTV技術を開発した。その際、ネット伝送される映像には制作者や考査等の来歴情報を付与し、その真正性を担保できる仕組みも実用化した。これらにより、一斉同報性や信頼性といった放送の価値に、個別最適や効果計測といった新たな価値を加え、現行テレビ放送が持つ可能性を大きく広げた。

##### 選考理由

アドレスサブルTVは、現行の地デジ(ISDB-T)のハイブリッドキャスト上にターゲティングCM、番組内容の個別最適化(地域差し替えなど)および、実数計測機能を追加したものである。さらに来歴情報技術を動画広告に応用する着想により、ネット側から取得するCMも含め、その真正性を暗号技術で担保できる仕組みも併せて開発した。本方式は、欧州、米国が既に規格化しているターゲティング広告手法より優れた先進的方式である。

### シーラカンス8K撮影チーム（NHK）

---

#### 世界初「シーラカンス8K撮影」および潜水艇撮影システムの開発

##### 業績内容

高精細8Kで「生きた化石・シーラカンス」の生態描写に挑み、世界で初めて群れで生きる様子を克明に記録した。潜水艇外部に耐圧ハウジングを備えた8Kカメラを実装し、映像と制御信号を光ファイバー1本に多重化する「光変換装置」を新規開発。艇内からのフルコントロールを実現するとともに、被写体距離5mで解像性能を最大化する「8K補正レンズ」を設計し、深海高圧環境下での高精細撮影技術を確立した。

##### 選考理由

潜水艇用8K撮影システムを開発し、インドネシア・スラウェシ島沖の水深160mにおいて、太古から生息しているシーラカンスを撮影した。この撮影システムでは、海水、アクリル、空気の各層の屈折率の違いを補正する8K補正レンズを開発したほか、機材の小型化により長時間運用を実現した。これにより、鮮明で迫力あるシーラカンス群泳シーンを撮影できたことは大きな成果であり、学術的価値も高く、放送文化の発展に大きく寄与した。

# 手話CG研究開発チーム（NHK、NHK財団）

## 手話CG制作システムの研究開発および実用化

### 業績内容

手話を第一言語とする聴覚障害者にとって、字幕だけでは得られる情報が不十分という課題があった。日本語から手話のCGアニメーションを自動生成する手話CG制作システムはこうした課題を解決でき、災害発生時の迅速な情報発信や長時間にわたる継続的な情報提供等への活用が可能となる。2026年の大規模スポーツ大会の特番等でも活用され、今までにない新たな手話コンテンツの拡充・提供を実現した。

### 選考理由

聴覚障害者向けの手話放送においては、これまで手話通訳者が放送局に常駐する必要があり、特に長時間の放送では通訳者に大きな負担が生じていた。今回開発されたアバターによる手話CGシステムは、従来の定型文に加え任意の文章にも対応した手話CG制作を可能とし、緊急時の災害番組や長時間番組への手話放送を実現できる。こうした点は、障害の有無にかかわらず誰一人取り残さないという放送のアクセシビリティ向上に大きく寄与するものであり、その意義は極めて大きい。

## 1万人の第九EXPO2025 技術チーム（毎日放送）

### 1万人の第九EXPO2025

#### 業績内容

大阪・関西万博の開幕イベント「1万人の第九EXPO2025」において、次世代通信網「IOWN」で約10km離れた本社と会場を結び、離れた場所から番組を作るリモート番組制作中継スタイルを実現した。大屋根リングに広がる1万人の合唱を、高度な放送技術によりズレのない「一つの音楽」として成立。また事前募集した合唱動画とオーケストラの協奏も成功させ、会場を包む1万人の歌声を全世界へと発信した。

#### 選考理由

関西万博初日に、会場での「第九」の演奏と1万人の合唱を完全に同期させ、最新IP放送機器を用いて放送と配信を実施した挑戦的な取り組みである。具体的には、大屋根リングの横幅500mに配置した合唱団と、水辺を挟んだ位置にある佐渡裕指揮のオーケストラとの音響を完全に同期させた。さらに万博会場と毎日放送本社を、約40kmの光伝送経路による低遅延IOWNで結び、21台のカメラ映像と64chの音声を非圧縮・低遅延で伝送する大規模リモートプロダクションシステムを実現した。

## 特別賞

メディア環境が大きく変化するなか、放送の未来を切り拓き、新たなメディア文化創出にチャレンジする取り組みを表彰し、その可能性を積極的に応援する賞

### チームコウセイラジオ

### (ラジオ番組「コウセイラジオ～break through the wall～」制作グループ)

#### 少年院・刑務所経験者や支援者が犯罪と立ち直りについて語る番組の企画・制作

##### 選考理由

2022年にエフエムとよたで放送が始まった「コウセイラジオ～break through the wall～」は、更生を目指す当事者の声をラジオという媒体の特性を生かして社会へ届け、偏見や孤立の壁を越えようとする取り組みである。少年院・刑務所経験者は自らのことばで話して過去と向き合うことを再出発の契機とし、リスナーは彼らのありのままの声から前向きに社会復帰を志す思いをくみ取り、偏見の壁を溶かす。ラジオならではの“声”による情報の温かみが確かな効果をもたらし、番組が当事者の意思を社会につなぐ架け橋としての機能を果たしている点は高く評価できる。さらに全国のコミュニティFMでも放送が始まるなど、その活動は着実に広がりを見せており、地域FMが地域社会で果たす新たな役割を切り拓いている。今後のさらなる展開にも期待したい。

# 審査委員・専門委員一覧

## 審査委員会

- 委員長 桐野夏生氏（作家）  
河合祥一郎氏（翻訳家）  
小島ゆかり氏（歌人）  
西野輝彦氏（日本民間放送連盟特別主幹）  
丹羽美之氏（東京大学大学院教授）  
本間康文氏（元TBSテレビメディア戦略室担当局長）  
山名啓雄氏（日本放送協会副会長）  
山根基世氏（アナウンサー）

## 専門委員会

### ドキュメンタリー部門

- 委員長 桐野夏生氏（作家）  
井上佳子氏（ノンフィクション作家）  
大島新氏（ドキュメンタリー監督／東京工芸大学教授）  
金川雄策氏（DDDD Film School代表）  
澤康臣氏（ジャーナリスト／早稲田大学教授）  
林典子氏（フォトジャーナリスト）

### ドラマ部門

- 委員長 河合祥一郎氏（翻訳家）  
岩根彰子氏（フリーライター）  
マーサ・ナカムラ氏（詩人）  
長谷川朋子氏（ジャーナリスト／コラムニスト）  
毛利嘉孝氏（東京藝術大学大学院教授）  
若泉久朗氏（KADOKAWA執行役員）

### エンターテインメント部門

- 委員長 丹羽美之氏（東京大学大学院教授）  
稲田豊史氏（ライター／編集者）  
澤本嘉光氏（CMプランナー／エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター）  
土屋敏男氏（Gontents合同会社代表／みんなのテレビの記憶合同会社代表）  
豊崎由美氏（フリーライター／書評家）  
松山珠美氏（フリーライター）

### ラジオ部門

- 委員長 小島ゆかり氏（歌人）  
石井玄氏（ラジオプロデューサー）  
齊藤潤一氏（関西大学教授）  
須藤晃氏（音楽プロデューサー／作家）  
武内陶子氏（アナウンサー）  
玉田玉山氏（講談師）

## 専門委員会

### 放送文化部門

委員長 山根基世 氏（アナウンサー）  
井上由美子 氏（脚本家）  
音 好宏 氏（上智大学教授）  
澤田隆三 氏（大阪芸術大学教授）  
鈴木嘉一 氏（放送評論家／ジャーナリスト）  
村上圭子 氏（メディア研究者）

### 推薦委員

浅野加寿子 氏（放送評論家／プロデューサー）  
日笠昭彦 氏（LLC創造ノ森 代表・プロデューサー）  
脇田泰子 氏（椋山女学園大学教授）  
和田省一 氏（朝日放送テレビ名誉エグゼクティブ）

### 放送技術部門

委員長 本間康文 氏（元TBSテレビメディア戦略室担当局長）  
相澤清晴 氏（東京大学名誉教授）  
岩崎裕江 氏（東京農工大学教授）  
岡野直樹 氏（一般社団法人電波産業会 専務理事）  
春口 篤 氏（元NHK技術局長）